

日立市における新産業廃棄物最終処分場に関する詳細考察

(住民説明会で配布された資料、文中の関連資料等は、HPの資料リンクにあり、🔍下さい。

<https://voice2020.bona.jp/link/index.html>)


1 一事業者の利益追求に県が安易に相乗りした「日立セメント鉱山跡地ありき」の選定ではな
いか 候補地選定に透けて見える故意なる誤りの数々。 『……』(県の発言、知事会見)


- 『不透水性の岩盤である』→岩石は皆不透水性だが、割れ目があれば、そこが雨水などで溶けてゆく、特に石灰岩はその特徴が顕著で、鍾乳洞が出来る。大久保の風穴、諏訪の水穴以外にも沢山存在している(日立市郷土博物館)。『不透水性』と言う判断は、石灰岩鉱山跡地には、当てはまらない。又、産廃処分場は、沢筋には作らないとする業界常識をも犯している。候補地の内の地名に、唐津沢鉱床とある。更に、候補地東側の、諏訪・大久保・成沢・油繩子・河原子学区には、市民の命のインフラと言える、災害時協力井戸が64箇所もある。(日立市防災マップ🔍)
- 『300m以内には民家はない』『生活環境に影響が少ない』→300m(徒歩4分)は、県が決めた単なる要項。3km以内には数多くの住宅団地、保育・幼稚園他、学校教育施設等、、これ程の多数の市民が住むところへの国内立地例はない。生活環境への影響は甚大である。
- 『幹線道路利用により良好』→当初の道路明示は、国道6号(超渋滞)と県道37号(乗用車すれ違いがやっとのところあり)だけであった。机上の選定が明らか。指摘に対し『候補地の位置を明示しただけ』と開き直す。追加された、唯一の油繩子十文字からの搬入路は、県としても無理と承知の提案か?それは、道路問題だけに関心を引く作戦かも知れない。
- 国内で一番リスクの高い(3.11被災原発・40年超・可燃性ケーブル・重要港湾内・旧地震知見の合格等)と言われる、東海第二原発からの距離は、12kmのUPZの避難計画範囲である。万が一の原発事故で施設を放棄せざるを得ない。その後、この施設が、福島双葉町同様、原発事故由来の基準を超える放射性廃棄物を受入れることになる可能性も。選定委員会で議題にもせず、議論もしていない。

セメント販売グループ会社である太平洋セメントは、HP🔍で次のように述べている。

「鉱山の開発・操業さらに跡地の利用にいたるまで地元との協働を旨としています。生態系


の保全、水資源の保全活動など、環境影響ネットゼロを目指して行います。」


日立セメント(株)は、5億年前と日本最古の地層群からの天啓の石灰岩鉱山跡地を、出来るだけ自然に返すことが、企業倫理であり、社会的責任である。今回、そこを、産廃処分場に提供しようとしている。行政は、事業者はその社会的責任を求め、「県北ジオパーク構想」に協働して補助すべきところを、**明らかに不適地**を選定とした。言語道断である。

- 2 施設の遮水構造・遮水工事は、複合技術の寄せ集めで、寿命もあり、絶対の安全はなく、様々なリスクがある。 エコフロンティアかさまで発生している、有害物資侵出実態を『国の基準以下』と指摘をかわすが、清浄な地であったところが、県平均の倍以上の数値であることは事実である。この地域を、どこかのコンビナートの近隣地にするようなもので、日立市は、この大いなる**リスクを未来永劫**抱え込むことなる。

●**遮水構造破損の想定内リスク**は、施工時、斜面施工時、廃棄物の重量、偏荷重等である。様々な過去のトラブル発生から、H10年環境庁の【改正命令】発令。笠間では『国の基準の1.5mmでなく2mmとしている』が、現行は、1.5mm×2重が標準になっている。指摘に、『笠間の施工実績の説明で、日立での施工方法を言っていない』と開き直る。

想定外として指摘される点。

●**活断層の存在** 「(300km先を震源地とする)東日本大震災では何の影響もなかった。」と評価しているが、阿武隈山系内の多賀山地には、福島県から断続的に続く活断層群がある。現在判明しているのは十王町までだが、たかだか13km先である。学者に言わせれば、「割れて初めて分かるものもある」

●**気候変動による短時間大雨降雨量**は、施設の許容範囲を越えるのではないか。折りも折り、次のような想定外の犯罪的運営行為が8月に判明した。報道によると、「京都府宇治市100%出資の「宇治廃棄物処理公社」で、10年以上前から、施設保護のため、年に数回大雨降った際に処理せず川に放流した。」 京都新聞 8/21付け 9/21付け 

- 3 住民説明会資料には明示しない、質問無ければ触れようとしない、不誠実、不都合な項目。

●**放射能廃棄物**受入について：住民説明会資料には、放射能の‘ほ’の字もない。質問に『今のところ受入れる予定はない』受入れないとの約束を要求されても応えない。将来、受け入れ

ることになると言っているのに等しい。笠間では、『受け入れる予定は、無かったが、東日本大震災後、笠間市と協定し、国の基準(8000 ベクレル)以下の物を受け入れている。』しかし、2016年3月時点で、総量は1500億ベクレルと推定されている。(自治体問題研究所HP、エコフロンティアかさまを監視する市民の会の寄稿文より🔍)

- そもそも**どんな場所か?** 正確な情報を提示しない。逆に、実体を見せようとしないう惑が見える。説明会資料に載せた候補地の写真は、水面を写さない掘削した跡地の写真を利用している。連絡会のHPには、相当深い谷底に水が溜まった写真が載っているが、ここが候補地である。市民感覚からは、「え!こんなところに!」、日立セメント(株)所有地の広大な全体を明示すれば、「え!こんなに広いところに!あと3つぐらい出来ちゃうね!」である。

この水は、石灰成分の多い水なのであろう、『中和して鮎川に放流する。』ことになる。

- 笠間での実態**を開示しない。エコフロンティアかさまで発生している、有害物資侵出実態を『国の基準以下』と指摘をかわすが、清浄な地であったところが、県の環境白書等のデータ🔍から、県平均の倍以上の数値となっていることは、事実である。

- 県内発生データを出すが、**県外からのゴミや廃棄物**の受け入れを、質問なければ、明示しない。『建設に当たって、国の補助金を活用するが、国からは、広域処理の要請を受けることになる。』県北の候補地故、福島県からの基準以下の放射性物質処理案件も想定される。

- 「小さく産んで、大きく育てる」なる言葉があるが、同じように、当初の計画は、最終処分場だけを記載するが、基本計画には『日上市にふさわしい中間処理施設(焼却炉)等の導入』の記述🔍がある。そうとなれば、一日の出入車両は、約200台ではなく、**500台**となる。

- 笠間市内で交通規制をしていることを明示しない。説明会会場で、搬入車両に対する懸念を出された時に、車両に提示させるボードを掲げ、説明するが、このボード裏には、ドライバー向けの笠間市街への車両侵入を規制している地図🔍がある。**笠間市への配慮を、日上市に対しても**準用すれば、南は、渋滞が始まる石名坂、南高野、久慈町、北は、滑川までが、日上市街である。当初より搬入路設定に難があり、候補地選定の大きな間違いの一つである。

- 住民説明会に於ける市民の様々な懸念・指摘に対し、『今後、調査し検討して、、』『可能な限りの対応をして、、、』『今後策定する基本計画の中で検討して、、、』と結果、**何も明確に答えてい**

ない。「策定された、基本計画を提示してから、再度住民説明会を開くべき」との指摘に対し、『基本計画策定のその前に市の承諾をいただきたい』と、白紙委任を迫り、不誠実極まりない。『市民の皆様にご理解いただけるよう、努力してまいります。』とは、よく言えたものである。
(県 HP<いただいたご意見等への回答>8月10日時点から)

4 **日立市全体の問題**なのに、地区を一点に絞り、市民に広く理解を求めようとしていない。

『一か所に決まった時点での公表は、反対運動でも起きて困るから』と本音を出していた。市民全体に理解を求めると県議会で知事は表明しているが、住民説明会は、市内23学区あるところ、**近隣4学区にだけ絞り**、且つ、40回/25日の説明会の内、特に集中の諏訪：25回、大久保：3回、成沢：5回、油縄子：3回、市全体対象は、4回/2日各100名の400名限定と、丁寧な説明に程遠い。更に、問題は、諏訪学区での出来事である。学区外の市民や市議会議員が、「席が空いていれば」と、入室を求めても、県との共催であると称する交流センター(昔で言えば公民館)の責任者M氏は、入場拒否に及んでいる。その為、建屋内であるが、聞きづらいロビーでの聴取となった。しかし、諏訪小学校体育館における説明会時、蚊の出る夕方、外で聴けと入場拒否に、外では人権侵害だと訴えて入場した市民を、警察を呼んでまで排除するに及んだ。市民の知る権利を阻む権利はないはずで、この越権行為は見過ごすことは出来ない。説明会の主催である県の職員、臨席する市の職員(環境衛生課)もその事態を承知している。大きな問題である。なお、成沢、油縄子では、学区外でも入場制限はなかった。

5 **「日立市コミュニティ推進協議会」(住みよいまちづくりに寄与することを目的)の問題点**

特に、他学区とは違い、住民説明会の司会役をも担う諏訪学区の役員前述M氏は、「役員としては反対・賛成は言いません」と言いながら、**開設を前提した**意見を集約するようなリード役となり、「皆さんの要望意見を出してもらおう」「要望全部が叶う訳ではないが、笠間では多く実現している」更に、「日本一立派な施設を作ってもらいたい」とまでの発言をしている。中立の立場を以て事を進めるべきを、**県行政の代務者**として振舞われたことは大きな問題である。

以上 (文責：軍司 wlpig52519@yahoo.co.jp)